

JISA 中部地区会 開催報告

令和 7 年 11 月 10 日（月）、名鉄グランドホテル(11F)「桂」の間において令和 7 年度中部地区会が開催された。参加者は関係者含め 41 名であった。



中部地区会
代表幹事
勝寄 保徳氏

冒頭、中部地区会 代表幹事（株式会社中電シーティーアイ 執行役員）勝寄 保徳氏が「生成 AI、サイバーセキュリティ、DX 推進、人材育成など私たちを取り巻く環境の変化へ対応するため、組織を超えた対話と交流の機会を増やし、相互理解と信頼の土台を作ることが大切だと考えております。本日の春日井製菓販売様のお話は、我々 IT 業界にとっても多くの示唆に富んだものであると確信しております」と挨拶した。

また、JISA 副会長（株式会社ワイ・シー・シー 代表取締役社長）長坂 正彦氏が「私の本拠地は山梨で、リニアが開通すれば関東や関西とも日帰りで交流できるようになり、IT 業界がますます発展することを期待しております。地方代表の JISA 副会長として、地方と政府を繋ぎ、グローバル化を推進し、地方都市の活動に光を当て、全国の地方 IT 企業が JISA 活動を通じて交流し更なる発展を目指していきたいと考えております」と挨拶をした。



JISA 副会長
長坂 正彦氏



愛知県情報サービス
産業協会 会長
古川 博史氏

次に中部エリアの関連団体を代表し、一般社団法人愛知県情報サービス産業協会（AIA）会長 古川 博史氏から、「AIA の喫緊の課題は採用で、首都圏と比べると企業数も学生数も 10 分の 1 ほど。AI の進展に伴い、状況はさらに苦しいものとなっております。愛知県は製造業の IT 子会社が多く、本日の交流会では首都圏の皆様とも活発な情報交換をさせていただきつつ、愛知県の IT 企業の支援を続けて参りたいと思っております」と挨拶があった。

講演会では春日井製菓販売株式会社 おかしな実験室 室長の原 智彦氏より、『オープンイノベーション成功のコツ～売上アップも人材育成も地域貢献も一度に果たす、お得な共創事例～』と題する講演が行われ、活発な質疑応答が行われた。講演の主な内容は以下のとおりである。

○イノベーションのコツは「開く」＋「なのに」。



春日井製菓販売(株)
おかしな実験室 室長
原 智彦氏

オープンとは閉じていない状態であり、意志を持って「開く」こと。開くと感情や情報の出入りが生まれる。イノベーションの語源は「既存のものに新しいものを入れる」で、シュンペーターは「新しい組み合わせ」と定義した。僕はそれをより簡単に実践できるよう、異質な二つを「なのに」で結び付けて笑いや驚きが生まれたら、それがイノベーティブなアイデアである、と提唱している。

○弊社は経営理念として「おいしくて、安心して多くの人々に愛され続けるお菓子作り」を掲げているが、マザーテレサは「愛されるには愛することを」という言葉を遺しており、それを実践している。

○社名をことわざの「子はかすがい」に重ね、異質なものをお菓子でつなぎ合わせるこそ弊社の使命ではないかと考え、「スナックかすがい」というトークイベントを開催し、会社の知名度向上と、人との楽しいつながりを提供することで「愛する」の実現を図ったところ、社外にも弊社のお菓子を愛してくれる人が増えた。

○何か面白いことを一緒にやりたい、と意思表示してくれる企業も増え、「おかしなサマースクール in 愛知」という多業種 46 社が通年で面白く学び合うコミュニティも生まれた。

○特に若い人材の育成には、圧より“ときめき”が重要。労働人口は減少の一途。前例のない意外性と喜びのある施策をやってみる勇気を持てるか否かが、まさに経営者に問われている。

○マーケティング 4.0 における購入の決め手は価格や機能だけでは足りず、自分らしさが生かせるか？自己実現できるか？が最も大切になってきている。会社選択の決め手も同じ。幹部も若手も共に輝けるような場を作りましょう。

講演会の後はスカイダイニング G(12F)にて懇親会が行われ、JISA 参事 人材委員会委員長 松田 信之氏から乾杯の挨拶があり、歓談へと移った。

勝寄代表幹事の挨拶で、盛会のうちに閉会した。(事務局)



JISA 参事
人材委員会委員長
松田 信之氏



懇親会の様子